

## 反ワクチン陰謀論者やデモ団体はどっちを向いても揉め事ばかり…理解不能な“内ゲバ”まで

2024年3月28日日刊ゲンダイ藤倉善郎

陰謀論や反ワクチンのデモは、オリジナルの歌やラップ、楽器演奏もあって、見るからに楽しそう。しかし裏では、理解不能な“内ゲバ”が起きている。

2019年に日本国内で、アメリカの陰謀論集団「Qアノン」のメッセージを翻訳して広める「QAJF」が設立。創価学会のことも批判しているが、ネット上では執行部に対して、「初期メンバーを追い出してQAJFを乗っ取った創価学会の手先」との批判も。

22年初頭に反ワクチン集団「神真都Q会」（連載第5回で紹介）が台頭すると、QAJFは自分たちは無関係とする声明を発表。神真都Qのデモに参加しないよう呼びかけた。

「その背後にDS（ディープステート=影の政府）側の組織が関わっていることも考えられます」

陰謀論者が陰謀論者を陰謀論で殴っている……。

セックス教団「ラエリアン・ムーブメント」（連載第1回）を紹介直後、陰謀論者たちの護憲運動のグループ内で、ラエリアン排除を唱える声が上がりはじめた

「“セックス教団”のイメージから運動を守るため」だという。しかしその人物、実は「三浦春馬さんは自殺じゃない」を訴える運動（連載第9回）の暴力的なグループのリーダーだ。世間の評判を気にするなら、そっちの方がまずいのでは？

反ワクチン政党「参政党」も揉めている。昨年、神谷宗幣参院議員が松田学代表に辞任を求め、自らが新代表に就任。すると“神谷独裁”への批判が高まり、パワハラ疑惑まで飛び出して、11月に幹部らが次々と離党や除籍に。「小麦粉は日本人には有害。戦後にGHQが日本に普及させたもの」とする陰謀論を吹聴していた吉野敏明氏も離党した。今年1月には、地方議員9人が一斉離党する騒ぎもあった。

参政党と激しく敵対して街宣妨害を繰り返していたのが、絶賛内紛中のNHK党（現みんなで作る党）だ。急先鋒は、元幹事長の黒川敦彦氏。ところが前出の吉野氏は、参政党離党直後の今年2月、街頭演説で黒川氏と和解してみせた。

逆に、黒川氏の盟友である「日本列島100万人プロジェクト」（連載第8回）の毛利秀徳氏は、落選した熊本県知事選で、応援のため現地入りした黒川氏を拒絶。参政党の支援を得るためだとされ、黒川氏や支持者から非難を浴びている。

どっちを向いても揉め事ばかり。“闇の勢力”と戦う陰謀論者も、一枚岩とはいかないようだ。（おわり）

## 反ワクチン・反WHO大規模集会で見えたのは「信者ビジネス」展開と「陰謀論2世」培養



2024/06/07 日刊ゲンダイ

5月最終日の金曜午後、東京・日比谷公園の大音楽堂で反ワクチン・反WHOを掲げる大規模集会「WHOから命をまもる国民運動大決起集会」が開かれた。

平日にもかかわらず、4月に池袋で行われた5000人規模の反ワクデモをはるかに上回る数の参加者が集結。